阿蘇大噴火の溶岩と、石工の技に育まれた郷土の足跡

豊肥地域を支えた多彩な石橋を巡る

約9万年前の阿蘇山の大噴火によって、豊肥地域は流れ出た溶岩に広く覆われた。この溶岩が冷えて固まったのが、硬いのに加工がしやすい阿蘇溶結凝灰岩である。この石材が身近に潤沢にあったことから、この地域では早くから石造文化が起こり、石材加工の技が磨かれ、代々継承され、数多くの石橋が架設されて来たのである。この地域を巡ると、これまでの先人達の足跡が清流に架かる石橋に鮮やかに刻まれ、今を生きる私達に、郷土への深い愛着と誇りを、改めて教えてくれるのである。

3 原尻橋 はらじりばし

田園に映えるアーチ橋

JR豊肥本線の「朝地」駅前を流れる平井川。そこに架かる**朝地橋** 1 は大正12年（1923）の架橋。幅員が7.5mもあり、橋上で車が離合できる広さである。緻密な壁面の石組みと端正な欄干の姿を保ちながら、今も重要な生活道路として現役で活躍している。

この「朝地」駅前を左折し、かつての肥後街道、現在の県道57号を大野町方面へ向かう。途中で県道657号へ左折して西へ走ると、道脇の向原川をまたぐ小さな**古殿橋** 2 がある。築造は文化14年（1817）と県内では3番目に古い単一アーチも石橋。今では草藪に埋もれ、わずかに壁石が見えるのみだが、橋の脇には建造費を寄付した人々の名前を刻んだ「石橋記念碑」が立ち、静かに石橋を見守っている。

県道57号が大野竹田道路をくぐる交差点から、県道46号を南下して緒方町を目指す。国道502号、県道7号を西に走ると、日本の滝百選の一つ、原尻の滝がある。この滝のすぐ上流に架かるのが**原尻橋** 3 。建造は大正12年（1923）。橋長73mの優美な5連の石造アーチ橋は、深く落ち着いた色合いをまとい、のどかな田園風景にひときわ映える。さらに約1.5km上流に同じ年に建造された**長瀬橋** 4 が架かる。橋長78.4m。緑の草木に彩られた6連の石造アーチ橋は、壁石も欄干も水切り石も堅牢であり、建造時の姿をそのまま留めているかのようである。

1 朝地橋 あさじはし

4 長瀬橋 ながせばし

2 古殿橋 ふるとのはし

トップ2が居並ぶ絶景

JR豊肥本線の「緒方」駅の南、国道502号沿いに**鳴滝橋** 5 がある。架橋は豊肥本線の開業直前である大正11年（1922）。橋長は50m。やや足太で堂々たる姿の5連の石造アーチ橋は、連続する水切り石の並びが愉快な印象である。平成5年（1993）の集中豪雨で壁石と高欄が流失。壁石のみが復元され、高欄は改修されている。完成当時の姿のまま保存することの難しさを、改めて教えてくれる貴重な遺産と言える。

国道502号を東に向かい、JR豊肥本線「豊後清川」駅の手前、県道45号へ手前右折して南下。奥嶽川を渡って県道688号へ曲がり、左右知地区まで走って轟川を渡る。そこで大きく右に折れ、谷へ下って行くと**轟橋** 6 が現れる。架設は昭和9年（1934）。両岸の柱状節理の断崖を大きくまたぐ橋長は68.5m。端麗な造形美を見せる2連の石造アーチ橋の径間は31.6m、26.2mと、日本の石橋で最も広いスパンを実現。計算され尽くした絶妙なアーチ形状、時の流れを感じさせる灰白色の色調が、見る者を魅了する美しさである。

この橋のすぐ下流に架かる**出合橋** 7 は、大正14年（1925）の架設。こちらは単一アーチの石造橋であり、径間29.3mは日本で2位。つまり、この谷では径間長1位と2位のアーチ橋が隣り合う雄姿を眺めることができる。この出合橋は壁石もアーチも堅固で緻密な石組みであり、苔むした姿にゆるぎない存在感が漂っているようである。

現在も活用される石橋

先ほどの県道45号との分岐点まで戻って右折し、県道45号を稲積鍾乳洞の方向へ進む。中津牟礼川を渡ってすぐの脇道を谷へ向かうと、緑の渓谷に突然、**柳橋**（やなばし） 8 が現れる。堂々とした単一アーチの石造橋は橋長28.4m、幅員3.8m。築造は大正9年（1920）。もともとこの道は岡藩から延岡藩に通じる幹線道路であったという。完成時の堅固な石組みをしっかりと維持した柳橋は、今も地域の生活道路として活用されている。

県道45号に戻り、さらに南に向かうと、道沿いに**轟木橋** 9 が見える。大小2つのアーチを持つ石造橋は、のびやかなアーチと可愛いアーチの対比が目を引く。壁石と欄干の一部が流失し、補修の跡が目立つのがやや残念に思える。橋の脇に立つ「轟木橋記念碑」によれば、地域住民の農耕や集会のため、児童の通学のため、地元で広く寄付を募り、昭和4年（1929）に竣工したという。周辺はホタルや紅葉の名所でもあり、平成16年（2004）に白山川河川公園が開設されている。

この地域では県道57号沿いに、地元の農産品、加工品、地酒などが充実した「道の駅あさじ」や、県内有数の耕作地で採れる新鮮野菜がそろい、名物地鶏「豊のしゃも」が味わえる「道の駅おおの」がある。大分のナイアガラと呼ばれる名瀑の側にある「道の駅原尻の滝」では、地元野菜や加工品が豊富。柿の葉茶、ヤーコン茶も目を引く。国道502号沿いにある「道の駅きよかわ」には、直売所の他、個性豊かな7つの飲食店舗が充実。この地は御嶽神楽の源流の地であり、「神楽会館」が隣接しているのも旅の楽しみである。

5 鳴滝橋 なるたきばし

6 轟橋 とどろきばし

7 出合橋 であいはし

8 柳橋 やなばし

9 轟木橋 とどろきはし

道の駅「あさじ」

道の駅「おおの」

道の駅「原尻の滝」

道の駅「きよかわ」

土木遺産 in 九州のホームページアドレス
http://dobokuisan.qscpua2.com/